

令和4年度 図書館だより 〈第1号〉

令和4年5月18日(水) 群馬県立太田フレックス高等学校図書室 発行

読書運動推進協議会・若い人に贈る 読書のすすめ 2022

新たな一歩を踏み出したフレッシュなあなたに

みずみずしい感性、好奇心、柔軟な思考、そうしたものを豊かに持ちあわせている<若いとき>に読書をするのは、あとの生き方に必ず大きな実りをもたらします。あなたが読書を日常のなにげない習慣にすれば、思いがけない幸せな「本との出会い」がきっとやってくるにちがいありません。

(「読書運動推進協議会リーフレット」より)

読書運動推進協議会2022・若い人に贈る24冊を以下に紹介します。本校図書室でも用意しましたので、ぜひ足を運んでください。

	<p>『他者の靴を履く』 プレイティミカこ／著 文藝春秋</p> <p>意見の異なる相手を理解する知的能力「エンパシー」をめぐる思索の旅。“負債道徳”からジェンダーロールまで、現代社会のさまざまな思い込みを解き放つ。</p>		<p>『ブラザーズ・ブラジャー』 佐原ひかり／著 河出書房新社</p> <p>義理の弟・晴彦がブラジャーを着けているところに遭遇した高校生のちぐさ。おしゃべりだから好きと言う晴彦に、ちぐさは…？ まっすぐで軽やかな新時代の青春小説！</p>		<p>『捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ』 井出留美／著 あかね書房</p> <p>ヨーロッパへのパン修行の旅など、エピソードを交えながら、捨てないパン屋になるまでの葛藤を通じて、自然への深い愛情と、食品ロスなき未来への希望を描く。</p>
	<p>『思考からの逃走』 岡嶋裕史／著 日経BP</p> <p>なぜ人間は「自分で考えること」を手放すのか？ 9割の学生が望むAI進路相談、どれも疑われない検索エンジン。失敗を受け入れられない現代社会の問題を幅広く解説。</p>		<p>『教室に並んだ背表紙』 相沢沙呼／著 集英社</p> <p>寂しくて、迷ってしまったときは“物語”を読んで。中学校の図書室を舞台に、“読書”との出会いで変わっていく少女たちの心模様を描く、全6篇の連作短編。</p>		<p>『しあわせをさがしているきみに』 エヴァ・イーランド／作 ほるぷ出版</p> <p>しあわせは、べつのかたちをしていたり、ちがうなまえをもっていたりする。わがごとくとして、まもろうとして、つかまえようとして—そんな「しあわせ」のみつけかた。</p>
	<p>『なぜ私たちは理系を選んだのか』 柘太一／著 岩波書店</p> <p>大学で理系分野を学び、現在はさまざまな分野で活躍している7人にインタビューし、理系の魅力や可能性、理系から広がる世界について聞く。進路選択のヒントに！</p>		<p>『少女と少年と海の物語』 クリス・ウィック／著 東京創元社</p> <p>「お話は大事な。食べものとお水が大事なように」船が難破し漂流する少年と少女。極限状態のなか、少女が語る物語の力が少年の心を救う。カーネギー賞最終候補作。</p>		<p>『本当の「心の強さ」ってなんだろう？』 齋藤孝／著 誠文堂新光社</p> <p>勉強での失敗、友だちづきあい、コンプレックス、将来への不安…。人生の逆境を乗り越えるには？ しなやかに折れない、「柳のメンタル」を身につける方法を伝授。</p>
	<p>『格差と分断の社会地図』 石井光太／著 日本実業出版社</p> <p>知っていますか？生まれた「階層」で一生が左右され幸せに生きられない人があることを。コロナ禍が浮き彫りにした社会の歪み。改善のための知恵と道筋を示す。</p>		<p>『ホオナニ、フラおどりませ』 ハザー・ゲイル／文 ミカ・ソング／絵 さ・え・ら書房</p> <p>女と男、両方の性を自認する12歳のホオナニは、ハワイの伝統的な男性古典フラをとおして、「ありのままの自分」を表現しようとするが…。実話に基づく物語。</p>		<p>『みんなに好かれなくていい』 和田秀樹／著 小学館</p> <p>10人いればそのうち数人は、あなたのことが嫌い・もしくは興味がないのが当たり前。そもそも無理な「みんな仲よし」幻想から幸せに抜け出す方法。</p>
	<p>『もしも徳川家康が総理大臣になったら』 眞邊明人／著 サンマーク出版</p> <p>コロナを収束させ、信頼を取り戻せ！ AIとホログラムで復活した偉人たちが構成された徳川内閣に課せられたミッション。教養あふれる新感覚エンターテインメント。</p>		<p>『スマホ脳』 アンデシュ・ハンセン／著 新潮社</p> <p>スティーブ・ジョブズはわが子になぜiPadを触らせなかったのか？教育大国スウェーデンを震撼させ、社会現象となった世界的ベストセラーがついに日本上陸。</p>		<p>『10代の君に伝えたい学校で悩むほくが見つけた未来を切りひらく思考』 山崎聡一郎／著 朝日新聞出版</p> <p>小学生の頃、ほくは殴る蹴るの激しいじめを受けていた。自分に自信が持てなかったほくが、どうやって夢をかなえたのか？悩める10代に贈るサバイバルガイド。</p>
	<p>『桃太郎のきびだんごは経費で落ちるのか？』 高橋創・井上マサキ／著 ダイヤモンド社</p> <p>新宿の片隅の片隅に、桃太郎や浦島太郎など昔話の主人公たちが駆け込む税理士事務所がありました。知らない損する、税のことを楽しみながら学べる！！</p>		<p>『オードリー・タン自由への手紙』 オードリー・タン／語り 講談社</p> <p>だれかが「決めた」正しさには、もう、あわせなくていい。台湾の最年少デジタル大臣が、日本の若き世代に贈る、あなたが新しい社会をつくるための17通の手紙。</p>		<p>『学校では教えてくれない自分を休ませる方法』 井上祐紀／著 KADOKAWA</p> <p>なぜかイライラする、学校に行く意味がわからない、コロナで目標がなくなった……。小学校高学年～大人まで読んでほしい、精神科医が教えるセルフケアの決定版。</p>
	<p>『お探し物は図書室まで』 青山美智子／著 ポプラ社</p> <p>悩める人々が立ち寄った小さな図書室。不愛想だけど聞き上手な司書さんが本と付録であなたを後押しします。明日への活力が満ちていくハートウォーミング小説。</p>		<p>『希望の一滴 中村哲、アフガン最期の言葉』 中村哲／著 西日本新聞社</p> <p>いま人道危機の瀬戸際にあるアフガニスタン。医師・中村哲は30年前からこの国で人々に寄り添い、命を支える用水路までも築いた。彼の最期のことを刻んだ1冊。</p>		<p>『自分をたいせつにする本 服部みれい』 著 筑摩書房</p> <p>自分のしたいこと・したくないことはなに？ 自分くらいは自分の味方でいよう。自分が変われば周囲も、見える世界も変わる。本来の自分を取り戻せるワーク付き。</p>
	<p>『エレジーは流れない』 三浦しをん／著 双葉社</p> <p>毎日ひたすら平穏に過ごしたいと願っている男子高校生の怜。けれどもおおかまいなしに騒動は降りかかる。モヤモヤした日常を吹き飛ばす青春群像小説！</p>		<p>『武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方』 宮田律／著 平凡社</p> <p>アフガニスタンで凶弾に倒れた中村哲医師。35年にわたってパキスタンとアフガンで人道支援にあたった生涯をたどりながら、その生き方、考え方を伝える。</p>		<p>『しんどい時の自分の守り方』 増田史／著 ナツメ社</p> <p>自分がキライ、親とうまくいかない、学校になじめない、やりたいことが見つからない…。しんどさを手放し、もっとラクに生きるための、自分でできる心のケアを紹介。</p>